日能研 全国テスト 国語の問題

一　小学四年生のナオト君が暮らす地域には、子ども会があります。子ども会は、地域の子どもたちの交流が深まるように、大人の人たちに協力してもらって、お楽しみ会や球技大会を開くなど、さまざまな活動をしています。小学一年生から六年生までの子どもが会員です。

夏にはここ三年、やきものをつくる体験をしています。やきものづくりをしている人を地域の集会所に呼んで、やきもののつくり方を説明してもらいます。そしてねん土をこね、お皿やカップをつくり、絵やもようをつけるところまでを自分たちでします。つくったお皿やカップは、やいてもらった後、つくった人のもとにとどけられることになっています。

今、ナオト君は、小学六年生でお姉さんのアカネさんと、今年のやきものづくり体験について話しています。二人は今年、やきものづくり体験の準備を手伝うことになっています。二人の会話に耳をかたむけてみましょう。

【ナオト君とアカネさんの会話　Ⅰ】

アカネ　今年の夏も、やきものづくりができるね。

ナオト　うれしいなあ。一年生のときに初めて参加して、お皿をつくったのは、いい思い出になっているよ。つくり方の説明がわかりやすくて、一年生のぼくでも、楽しくつくれたなあ。やきあがったお皿がとどいたときには、自分がつくったものとは思えないほどの出来で、すごく感動した。今でもお皿、使えるしね。

アカネ　わたしも、やきものづくりは大好き！　なんと言っても、世界に一つしかない、自分だけのやきものがつくれるというのがいいね。ただねん土をこねているだけで、なんだか気持ちがいいし、ねん土がだんだんお皿やカップになっていくのを見ていると、わくわくするよね。

ナオト　うん。やきあがったものがとどくのが、待ち遠しくてしかたがないよね。今年は何をつくろうかな。

アカネ　でもね、わたしには残念に思っていることがあるの。

ナオト　残念って、何が？

アカネ　もり上がりに欠ける気がしない？　一年生は、毎年初めて参加することになるけれど、それ以外の学年で参加している人の顔ぶれは同じような感じになっているじゃない。

ナオト　たしかにそうだね。

アカネ　最近住宅がたくさん建って、転校してきた小学生がたくさんいるでしょ。でも、そういう人たちの参加ってほとんどないじゃない。さびしいなあ。

ナオト　もっと参加してもらえたらいいね。

問一　【ナオト君とアカネさんの会話　Ⅰ】からは、ナオト君とアカネさんが、やきものづくり体験について問題だと考えていることがあるとわかります。その問題とは、どのようなことなのかを説明しましょう。

二人の話はやがて、やきものづくり体験のお知らせの話に移りました。二人は今年、やきものづくり体験のお知らせの手紙を準備することになっています。

【ナオト君とアカネさんの会話　Ⅱ】

ナオト　今年のお知らせの手紙をつくるときに、去年のお知らせの手紙を参考にするのはいいとして、今年はもっとよくできないかな。

アカネ　わたしも同感。去年のお知らせの手紙って、これまで中身をほとんど変えずに、使い続けているものだよね。じゃあ、まず、二人でこれまでのお知らせの手紙の問題点を考えてみない？

ナオト　いいね。そして、それを解決するための工夫も考えてみようか？

そこで二人は、去年のやきものづくり体験のお知らせの手紙を見ました。左にあるのが、去年のお知らせの手紙です。

【去年のやきものづくり体験のお知らせの手紙】

やきものをつくろう！

今年の夏も、去年にひきつづき、やきものづくりをします。

ねん土をこねて、お皿やカップをつくり、絵やもようをつけるところまでを自分たちでします。

つくり方はプロの人がていねいに教えてくれるから、あんしん！

夏のいい思い出になるかも!!

日　　時：2013年８月25日（日）
　　午前８時から午前11時まで
場　　所：集会所
参 加 費：ひとり2500円
　　（参加費は当日いただきます）
申しこみ：参加のお申しこみやお問い合わせは、電話かメールで、サトウまでおねがいします（お申しこみは、８月18日までに）。
　　※電　話：090-△△△△-△△△△
　　メール：satou@○○.○○○.ne.jp

※やきものづくりの道具や材料は、すべて子ども会で用意します。手をふくタオルや、飲み物などは、各自で用意してください。

※「電話」番号と「メール」アドレスについては、正しいものが書かれていることとします。

問二　あなたが、ナオト君、アカネさんといっしょに【去年のやきものづくり体験のお知らせの手紙】の問題点を挙げて、それを解決する工夫を考えるとします。あなたなら、お知らせの手紙の問題点として、どのようなところを挙げ、それに対してどのような工夫をしますか。【ナオト君とアカネさんの会話　Ⅰ】の内容も参考にして、お知らせの手紙の問題点と、できそうな工夫をそれぞれ考え、ほかの人にも納得してもらえるようにくわしく説明しましょう。

答え

一

問一	例
同じ地域に住む子どものための行事なのに、転校してきた小学生の参加がほとんどなく、一年生をのぞいて同じような顔ぶれの参加になっているため、もり上がりに欠ける、残念な状況になっていること。	

問二	例
問題点	工夫
やきものづくりの説明や問い合わせ先が書かれているものの、初めて参加する人がやきものづくりに興味を持ったり、気がねなく参加したりできるような気配りがあまりないところ。	やきものづくりの楽しさが伝わりやすくなるように、これまでに参加したことがある人の感想を紹介したり、またカラーにできるなら、でき上がった焼き物の写真を載せたりする。さらに、初めて参加しようとする人が気軽に参加できるように、「初めて参加する人、大かんげいです！」などと書く。

仲間の記述例

記述例1

問二	
問題点	工夫
やきものがどう仕あがるかと楽しさがかかれていない 初めてでも大丈夫かもかかれていない	・去年までの仕上がりの写真をはるだけならこんなのができるんだったら行きたいをふやすため楽しそうに作っている写真もつけたす。なぜなら楽しそうだったら行きたくなるから。

記述例2

問二	
問題点	工夫
転校したばかりの人たちは集会場の場所がわからないかもしれない。 はじめての人はどんなことをするのかそもそもしれない。	うらに地図をのせる。 実さいにやった人の感想を入る。 やっている写真をのせる。

記述例3

問二	
問題点	工夫
転校生が一年生に対しての言葉が少ないことどんな物をつくれるのかよくわからないこと	転校生や一年生にむけて何かやりたくなるようなことや作れる物の絵や写真をかけばいいと思う

アンサーガイド

一　他者あるいは自分にとっての問題をとらえ、それを解決するための方法を考える問題です。他者が話していることや、自分自身がこれまでに経験してきたことを手がかりにして取り組むとよいでしょう。

問一　「でもね」で始まる「アカネさん」の言葉から後の、二人の会話が大きな手がかりになります。二人にとっての「問題」は、「アカネさん」の言葉を借りて短い言葉で言うと、「もり上がりに欠ける」ということです。ただし、これだけでは説明としては不十分です。「もり上がりに欠ける」のはなぜかなどが、よくわかりません。実際「アカネさん」は、「もり上がりに欠ける」原因に当たるようなことも話しています。それらをもとに、二人にとっての「問題」をくわしく説明するとよいでしょう。

問二　まず、「お知らせの手紙」の「問題点」を考えるにあたって、問題文に書かれているように、【ナオト君とアカネさんの会話　Ⅰ】も参考にしましょう。二人の会話から、「やきものづくり体験」の、一年生以外の参加者が「同じ顔ぶれ」になっているため、「もり上がりに欠ける」ことを、二人が「問題だ」と考えていることがわかりました。二人は、今年の活動で新しい参加者が増えてほしいとのぞんでいると言えます。すると、「お知らせの手紙」が、新しい参加者が増えるような、つまり新しい参加者が「やきものづくり体験」に興味を持ってくれそうな内容になっているかどうか、考えてみるとよさそうです。また、考えを深めるうえで、自分自身の経験もあれこれ思い起こしてみるとよいでしょう。みなさんも、これまでにさまざまな「お知らせ」を身近で見てきたはずです。それらの「お知らせ」と「お知らせの手紙」を比べてみましょう。このように考えるなかで、何か「問題点」と言えそうなことが、うかび上がることでしょう。そのうえで、うかび上がった「問題点」を解決するための工夫として、どのようなことができるか、考えてみましょう。